

I P U M A G

Iwate Prefectural University Magazine 2014 Summer Vol.

60

[特集1]

新産業の創出に 大学パワーを 活かすには？

県立大・滝沢市・企業との産学公連携

[特集2]

高大連携事業

IPU-研究室へようこそ!

IPU TOPICS

地域をつくる希望の星たち

県大いいね!キャンパスナビ



岩手県立大学

行政や企業との共同研究で IT拠点の創造をサポート!

新産業の創出に大学パワーを活かすには?



5月30日、岩手県立大学・地域連携棟の隣りに「滝沢市IPU第2イノベーションセンター」がオープンしました。IT関連企業のさらなる誘致によって、大学との産学公連携がどのように発展していくのか。今後の動きが期待されます。



大学と滝沢市とのタッグで 先進的なIT開発拠点を創る

岩手県立大学のポテンシャルを活かしながら、大学周辺エリアに県内最大規模のIT関連産業の集積拠点を創る。この一大構想が生まれたのは、平成21年3月。岩手県と滝沢市、そして本学が協力し、地域産業の活性化や新たな雇用の創出を目指し、「滝沢市IPUイノベーションパーク構想」(以下、パーク構想)が立ち上がりました。

構想の中心となったのは、本学の教育研究力と学生パワー。特にソフトウェア情報学部は、毎年多くのソフトウェア技術者を育成輩出している国内最大規模の学部であり、需

要の高い組込み技術に関する産業人材の育成にも力を入れています。一方、滝沢市は、大学や研究機関を擁する立地を活かし、IT関連産業の集積を図ることで、地域経済を活性化することがミッション。本学と密に連携しながら、誘致企業をサポートする諸制度を整えることにより、パーク構想の実現に取り組んでいます。

この構想の第一歩として、平成21年、研究開発支援や技術的課題の解決、新事業の創出などを目的とする「滝沢市IPUイノベーションセンター」を開所。これに次ぐ第2センターが今年オープンしたことで、さらなる企業進出と産業振興に期待が高まっています。

新センターの開所を契機に 産学公連携をさらに加速化

「ここには、大学の研究力と優秀な人材、滝沢市の協力体制があり、全国的にも恵まれた環境が整っています。共同研究を通じて教育支援や地域貢献ができるのも、大きなメリットです」と話すのは、第2イノベーションセンターに入居した(株)日立ソリューションズ東日本公共ソリューション本

企業にとって、本学の研究力やパワー、滝沢市の研究費補助を始めとした支援体制は、拠点整備に動く大きな魅力。また、インターンシップや共同研究等を通して学生と接することは、人材育成やリクルーティングにもつながります。学生にとっては、実践的な技術を学びながら、仕事に対する理解を深める貴重な機会となっています。

部の佐藤義人担当本部長。開学時からソフトウェア情報学部と共同研究を行っており、滝沢オフィスを重要な研究拠点と位置づけています。他にも高齢者身体障がい者支援のロボット開発やクラウド関連の研究開発、モバイル用アプリの開発など、様々な分野に渡って誘致企業との共同開発が進められており、知識・技術の集積や人材交流が盛んに行われています。

「第2イノベーションセンターの開所、他学部との連携も期待できますし、学生の就業力も高まります」と語るのは、産学公連携のコーディネーターを行う地域連携本部の柴田義孝本部長。滝沢市との連携を始め、様々な企業や自治体とつながっていくことは、大学の教育・研究力を高めると同時に、学生力を育むこと、これらの取り組みを進めることで、地域産業の活性化にも貢献していきます。

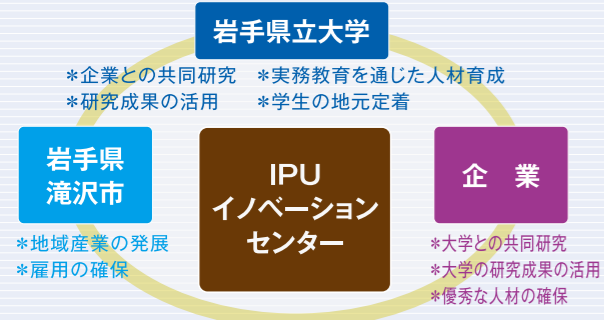
「滝沢市からのメッセージ」

滝沢市経済産業部企業振興課 赤迫 満さん
滝沢市にはメインとなる地域産業が少ないため、岩手県立大学と連携した「滝沢市IPUイノベーションパーク構想」は、産業振興の中核となるもの。企業誘致の働きかけを行うと同時に、研究費の補助金制度やシステムの実証実験のサポートを行うなど、滝沢市独自の支援体制を整備しています。今回の第2イノベーションセンターの開所は、新たなスタート。大学には、様々な学部で企業連携を進めていただきたいですし、学生にも共同研究などを通して個々のスキルを磨いてほしい。大学の魅力を高めることが、地域の活性化にもつながっていくと考えています。



「企業が進出したくなるような魅力的なまちづくりをしていかなければ」と話す、赤迫さん。

産学公連携の関係図



- 1 第2イノベーションセンターに入居した企業と教員、学生の打ち合わせ。大学の研究力と人材は、企業にとって大きな魅力。
- 2 5月30日に行われた開所式の様子。中村学長、滝沢市長、企業の代表者などがテープカットを行った。
- 3 (株)日立ソリューションズ東日本とソフトウェア情報学部の高田研究室との共同研究の打ち合わせ風景。
- 4 企業との共同研究やインターンシップ、アルバイトなどを通して、学生たちは実践力や就業力を身につける。
- 5 イノベーションセンター内には、個人向けの貸しオフィスもある。今後起業しようとする人に最適なスペースだ。
- 6 (株)クーシーとの調印式。第2イノベーションセンターには、7社の企業が入居。第1センターと計17社がオフィスを構えている。(6月現在)
- 7 「滝沢市IPUイノベーションパーク構想」の全体図。県内最大規模のIT開発拠点となる予定だ。

あったらいいな、大学×企業のこんな取り組み

今回の特集テーマに関するアイデアをTwitterで募集したところ、商品開発や販促活動、企業との交流会の開催など、企業との連携に関する様々なツイートをいただきました。その中からいくつかをご紹介します。



「IPU-研究室」へようこそ!

岩手県立大学は、地域のシンクタンク。学内では日々、様々な研究や教育活動が行われています。こちらでは、大学全体を大きな研究室にみたて様々な研究教育活動をご紹介します。



◎研究会プロフィール
在住外国人と地域をつなぎ、多文化共生社会に貢献できる人材育成を目指すこと、盛岡短期大学部を中心とした教員グループが「岩手県立大学多文化共生研究会」を発足。メンバーは、盛岡短期大学部・国際文化学科の石橋敬太郎教授(初期近代イギリス演劇)、熊本早苗准教授(アメリカ研究)、吉原秋講師(フランス法制史)、社会福祉学部の細越久美子准教授(異文化間心理学)の4人。専門分野の異なる教員が連携することで、多様な視点から意見を交わしながら、多文化共生の調査・研究に取り組んでいる。

[研究メンバー]
吉原 秋 講師
石橋 敬太郎 教授
熊本 早苗 准教授
細越 久美子 准教授
※写真左から順に記載

今回の研究テーマ 岩手県の在住外国人に関する調査研究 [岩手県立大学多文化共生研究会]

多文化共生の現状と課題を調査し、支援活動に役立つハンドブックを制作。

国際化の進展に伴い、岩手県内でも在住外国人が増えています。岩手県統計年鑑によると、県内の外国人登録者数は5,298人(平成24年)。広い県土に散在して暮らしており、言語、文化、慣習の違いから孤立することも多く、様々な問題が生じています。このような中で求められるのは、国籍や民族の違いを認め合い、共に生きることでできる「多文化共生」の実現です。いち早くこれらの問題に着手した岩手県立大学多文化共生研究会は、地域住民の異文化理解の現状と外国人が抱える諸問題を調査。同時に外国人が多く暮らす長野県や愛知県等の主な団体に、聞き取り調査を行いました。この結果をまとめたのが、下にご紹介する「いわて多文化共生ハンドブック」。県内外の先進的な活動紹介を始め、外国人支援に必要な心得なども示しています。



多文化共生の現状調査や震災時の調査において、岩手県国際交流協会が全面的に協力してくれた。

震災時の外国人支援活動に調査を広げ、多文化共生の今後のあり方を提示する。

言葉の壁から情報を得られず、慣れない避難所生活で苦勞するなど、東日本大震災は在住外国人にも大きな影響を及ぼしました。これを受けて多文化共生研究会では、災害時における在住外国人支援に関する調査研究に着手。国際交流協会の協力のもと日本語教室の関係者、通訳ボランティア登録者などを対象として、震災時の支援活動に関する聞き取り調査を行いました。その結果、災害時の対応に必要なのは「多言語での情報提供」と「地域とのつながり」。支援活動においては、震災前から人脈と実績を築き、信頼を得ている人ほど、活動を行っていることが明らかになりました。この調査は現在も継続中ですが、重要なのは日常的なネットワークと信頼関係づくり。普段から外国人との交流を広げていくことの大切さを改めて提示しています。



「いわて多文化共生ハンドブック」には外国人支援において参考になる事例が多く掲載されている。

学生が地元企業の商品の販促ポスターやホームページを制作して、PR活動をする。地元の学生がPR活動をすることで話題になるし、学生にとってはマーケティングの勉強になっていいと思う @takizawa_boy

企業で新商品のアイデアコンテストを開催して優秀なものを実際に商品化、定期的にコンテストを行いシリーズ化する。 @CtaxTaka

大学に、いろんな企業が日替わりでテナントを出展 @FurudateTatsuya

1,2年生でも気軽に参加できるような、企業と学生の交流会を行い、ちょっとしたイベントとしてアイデアソンなどを行う。学生が仕事への理解を深め、企業へ自分の考えを伝える場になればいいと思う @CtaxTaka

地元商品の宣伝を取り入れた大学風景を学生が撮影してSNS投稿～写真を集約し、グランプリ形式で公開する。 @lotusatleast

大学構内に県内企業の出張オフィスを設置して、実際の業務を見学・体験できるようにする。これにより、地元企業への理解を深め地元就職を支援する。 @takizawa_sig10

商品のパッケージやロゴ、チラシなどデザインの共同企画 @kuma_yo77

大学の研究室と栄養ドリンクがコラボして、研究室ごとに効果がどう違うか実証実験する。 @xxguzn12

Comment

企業さんと大学内で交流して新商品を作って販売促進していきたいという積極的な投稿が目立ちました。普段からの何気ないアイデアや発想がITを活用することで世の中に大きな反響を与えます。CG技術や3Dプリンターも身近に使える時代ですので、皆さんの自由で豊かなアイデアを是非とも実現してみてください。

地域連携本部 部長 柴田 義孝

※誌面のスペース等の都合により、お寄せいただいたツイートのうち一部の掲載とさせていただきます。

IPU公式アカウントについて

岩手県立大学では、お知らせやイベント情報などについて、よりリアルタイムに発信をするためTwitter公式アカウント[@IPU_official]で情報提供を行なっています。さらに、インターネット上での情報発信力をより一層強化するために、Facebook、You Tube等の活用も行っています。是非、Twitterアカウントの「フォロー」、Facebookページの「いいね!」によりコンテンツをご覧ください。

- Twitter → https://twitter.com/IPU_official
- Facebook → <https://www.facebook.com/iwateprefuniversity>
- YouTube → <https://www.youtube.com/user/iwateprefuniversity>



大学見学に訪れた三関修紅高校の生徒たちは、ソフトウェア情報学部で学生の説明を受けた。歳が近いせい、か会話も弾み、和気あいあいとした雰囲気。

高大連携事業

大学や学問への興味を育み、将来に踏み出すトビラを開く。

高校と大学では、学びの姿勢も勉強の内容も大きく変わります。予め大学に関する知識や具体的な情報を得ることができれば、進路選択の幅も広がります。高校生に対して大学への興味・関心を高め、将来を考えるきっかけをつくる「高大連携事業」。岩手県立大学の高大連携の取り組みをご紹介します。

大学を身近に感じてもらい、早い段階から興味を喚起する。

「大学って一体どんなところだろう？」「大学でどんなことを学べるんだろう？」漠然としたイメージはあるものの、高校生が具体的に大学を知る機会はその多くはありません。ともしれば偏差値に頼って大学を選びがちですが、将来的なキャリアも見据え、その夢を実現するステップアップの場として大学を捉えることが必要です。

そこで岩手県立大学では、高校生に大学の魅力を知ってもらい、早い段階から大学へのビジョンを明確に持つてもらうために、高大連携事業に力を入れていきます。

この高大連携の取り組みは全国的

にも浸透しつつあり、高校生が大学の授業に参加したり、大学教員が高校で出前講義を行ったり、高校と大学が協定を結んで独自のプログラムを組むなど、その内容は多種多様。大学ごとに取り組みは異なりますが、学校間や教員間での教育交流が広がるだけでなく、高校生にとっては、大学の雰囲気や学問などに触れられる貴重な機会となっています。

講義や体験イベントを通して、今まで知らなかった自身の適性や興味関心を見つめる。早い段階から多彩な経験を積むことで、社会における自分の将来像を見つけ出す。県立大学では積極的に高大連携に取り組むことで、高校生が将来に踏み出すサポートをしたいと考えています。

この大学見学を始めとして、県立大学では様々な高大連携の取り組みを進めています。例えばC/Aは、高校教員を対象とした大学見学会や高校訪問でも活躍。学生たちが実際の

大学内外の取り組みを通して、高校生の進路選択をサポート。

5月15日、三関修紅高校の二年生125名が県立大学を訪れました。ガイドを務めるのは、キャンパスアテンドメント(C/A)の学生たち。大学の全体説明を聞いた後、C/Aの案内でキャンパス内の施設や学部を回り、学生たちに大学での勉強などについて説明を受けました。これは大学見学のひとコマですが、大学生の生の声を聞くことができ、大学が身近に感じられると高校生に好評です。

この大学見学を始めとして、県立大学では様々な高大連携の取り組みを進めています。例えばC/Aは、高校教員を対象とした大学見学会や高校訪問でも活躍。学生たちが実際の

勉強の様子や暮らしを語ることで、具体的に大学生活のイメージがつかめると歓迎されています。また、大学での学びに関心を持つってもらうために、大学教員による出前講義も実施。学部ごとに多彩なメニューが用意され、年間40校もの高校へ講義に向かっています。最近では、県内各地で保護者を対象とした入試説明会も開催。大学への理解を深め、子どもの将来を共に考えるきっかけを広げています。

このような大学独自の取り組みに加え、いわて高等教育コンソーシアムによる「いわて5大学「駅前講義」や、県教育委員会による「高大連携ウィンターセッション」など、外部と連携した企画も実施。大学の興味と関心を高め、高校生の進路選択のサポートを行っています。

この大学見学を始めとして、県立大学では様々な高大連携の取り組みを進めています。例えばC/Aは、高校教員を対象とした大学見学会や高校訪問でも活躍。学生たちが実際の



いわて高等教育コンソーシアムによる、高校生を対象とした5大学「駅前講義」の様子。



県教育委員会主催の「高大連携ウィンターセッション」は、大学での学びを体験できる貴重な場。



「高校教員大学見学会」では、キャンパス・アテンドメントが体験を通して大学の魅力を紹介。



「大学見学」は高校生が大学を身近に感じる貴重な機会。進路に役立つ様々な情報が得られる。

< 高大連携事業 >

大学への興味・関心を高める「高大連携」の主な取り組みをご紹介します。

■ 学内企画

- ***大学見学**
高校からの依頼により、本学職員が大学の概要を説明し、キャンパス・アテンドメントの学生が大学内を案内する。
- ***高校での出前講義**
本学の教員が高校を訪問し、約50~90分の模擬講義を行う。学部ごとに特徴的な講義メニューを用意。
- ***オープンキャンパス**
キャンパスを開放し、各学部による説明会、キャンパスツアー、入試相談会、保護者説明会、各学部独自企画などを開催。
- ***高校教員大学見学会**
岩手県内の高校教員を対象とした大学見学会を、6月と9月に開催。教職員による説明の他、キャンパス・アテンドメントの学生による体験談発表やキャンパスガイドを実施。
- ***キャンパス・アテンドメントによる高校訪問**
キャンパス・アテンドメントの学生が高校に出向き、大学生活等の紹介や個別相談に応じる。
- ***保護者対象入試説明会**
県内の保護者を対象として、入試や学費関係の説明を実施。個別相談も受け付けている。
- ***入試直前相談会**
高校3年生を対象に、センター試験前最後の相談の機会として進路相談会を開催。
- ***いわて高校生小論文コンクール**
県内高校生を対象に小論文を募集し、優秀作品を表彰。

■ 学外企画

- ***いわて高等教育コンソーシアム「いわての大学に行こう!いわて5大学「駅前講義」**
- ***県教育委員会「高大連携ウィンターセッション」**
- ***進学相談説明会**

[参加高校生のメッセージ]

渡邊 雅也 さん(一関修紅高校1年)
いろいろな施設を案内してもらいましたが、印象深かったのがパソコンが自動的に出てくる教室。研究室も見学し、意外と広いことに驚きました。大学にはたくさんの学部があり、そこで学ぶ人の話を直接聞いたことで、大学をリアルに実感できたのが良かったです。これからの進路選択に役立つ様々な情報を得ることができました。



[高校教員のメッセージ]

小嶋 克也 先生(一関修紅高校教員)
毎年いくつかの大学を見学に行きますが、大学によって印象が全然違います。生徒が自分の目で大学の様子や学生の雰囲気を感じることで、将来の姿を具体的にイメージできるのが、大学見学のメリット。特に県立大学は歳の近いC/Aの学生が案内してくれるので、生徒の緊張もほぐれますし、気軽に会話できるのがいいですね。





TAKIZAWA CAMPUS 4.7

滝沢・宮古で入学式。781名が希望を胸に新生活へ

4月4日に宮古キャンパスで宮古短期大学部、4月7日に岩手産業文化センター(アピオ)で岩手県立大学、大学院及び盛岡短期大学の平成26年度入学式が行われました。今年度の入学・編入生は宮古キャンパス106名、滝沢キャンパス675名の合計781名。来賓や保護者の方々に見守られながら、それぞれの充実した学生生活へ向けて新たな一歩を踏み出しました。



MIYAKO CAMPUS 4.4



4.12

「やりたいこと」を見つける新入生歓迎会

4月12日、滝沢キャンパスで新入生歓迎会が開催されました。天気も味方し、大勢の新入生たちが参加しました。県大モールから始まり、学生ホール棟のステージイベントや、体育館のサークル・委員会などのブースはたくさん新入生で賑わっていました。大学ならではのさまざまな学生活動と生き生きと活動する先輩たちの姿に、新入生たちはよりいっそう大学生になったという実感がわいたのではないのでしょうか。



4.15

岩手県立中央病院と看護学部との合同勉強会

看護学部では、多くの学生が卒業後の勤務地として、また臨床実習等でも大変お世話になっている岩手県立中央病院(以下、中央病院)との連携を深めることを目的に、双方の教育力向上をめざした定期的な合同勉強会と共同研究に取り組んでいます。写真は4月15日に、中央病院において新年度となり看護学部と中央病院それぞれの新たなメンバーで顔合わせ会を行ったときのものです。



4.25

新たな絆を目指す取り組み「LINK topos」

4月24日・25日、そして29日の3日間にわたって、学生食堂で「LINK topos」が開催されました。「LINK topos」は「LINK=つながる、topos=英知を結集する場所」という意味。学生・教員・職員が協働して大学の組織力を最大限に活かし地域の未来を創造していくきっかけとすることを目的に、学生が企画運営を行ったイベントです。29日は合計41名が参加し、「地域について考える」等のワークショップやアイスブレイク(写真)を行いました。大学が一体となることを目指した学生による企画。今後の展開が期待されます。



4.24,25

「日用品無人販売システム」2ヶ所目運用開始!

ソフトウェア情報学部村山研究室の学生が開発した簡易商店システムが、4月28日から釜石市唐丹町花露田の災害公営住宅で運用を始めました。このシステムは、利用者が商品とプリペイドカードのバーコードを自ら読み取って、店員なしで買い物ができる仕組み。学生たちが1期生の時代から自分たちの研究室で実際に利用しながら続けてきた研究を、仮設住宅や災害公営住宅での日用品販売システムとして応用したものです。平成25年9月の宮古市の赤前仮設住宅に続き、今回は2ヶ所目の運用開始となりました。



4.28

毎年恒例、「体育祭」が開催されました

平成21年度から始まった体育祭も今年で6回目。今年は天気にも恵まれ、3年ぶりの屋外開催でした。学生は、学部ごとに分かれてチームを組み、そこに教職員チームが加わって競技ごとの得点を競い合います。競技は玉入れ、長縄跳び、綱引き、そしてチーム対抗リレーの4種目が行われ、一つ一つの競技で元気な掛け声や声援が飛び交っていました。今年の優勝は看護学部チーム。滝沢・宮古両キャンパスの学生たちが、学部の垣根を越えて交流を深めました。



5.10

I P U T O P I C S

岩手県立大学のニュースやイベントなど、旬のトピックスをご紹介します。

人事異動情報

平成26年3月31日付転出・退職

岩手県文化振興事業団/事務局兼総務部長(前 教育研究支援室/室長(兼地域連携室/室長))	鈴木 清也
総務部/総務事務センター/主任主査(前 教育研究支援室/主幹)	菊地 和伸
政策地域部/調査統計課/主査(前 教育研究支援室/主査)	岩間 純
県南広域振興局/県税部/花巻県税センター/主事(前 教育研究支援室/主事)	長門 英理子
農林水産部/農林水産企画室/管理課長(前 地域連携室/地域連携課長)	瀧澤 信一
商工労働観光部/観光課/主幹兼観光振興担当課長(前 企画室/副参事兼総務財務課長)	菊池 茂
環境生活部/県民くらしの安全課/主査(前 企画室/主査)	鈴木 静子
県土整備部/港湾課/主査(前 企画室/主査)	鈴木 亨
岩手県教育委員会事務局/教育企画室/主査(前 企画室/主査)	八重樫 寛昭
岩手県教育委員会事務局/教育企画室/主査(前 企画室/主査)	高橋 永江
岩手県教育委員会事務局/学校教育室/主任(前 企画室/主査)	鈴木 寿子
県南広域振興局/総務部/一関総務センター/所長兼総務課長(前 宮古事務局/事務局長)	稲森 雅夫
盛岡広域振興局/企画経営部/主査(前 宮古事務局/主査)	山崎 達也
県南広域振興局/県税部/一関県税センター/主任(前 宮古事務局/主査)	佐々木 勝
退職(前 学生支援室/主事)	西島 雅花
退職(前 学生支援室/コーディネーター)	藤田 正実

平成26年4月1日付転入・採用

教育研究支援室/室長(前 政策地域部/政策推進室)	小平 浩
教育研究支援室/主幹(前 県南広域振興局/経営企画部)	藤井 等

教育研究支援室/主査(前 農林水産部/岩手県林業技術センター)	藤原 友往
学生支援室/室長(前 沿岸広域振興局/経営企画部)	高橋 一教
学生支援室/主任主査(前 沿岸広域振興局/保健福祉環境部/宮古保健福祉環境センター)	大石 明法
学生支援室/主査(前 政策地域部/NPO・文科国際課)	尾張 美香子
地域連携室/地域連携課長(前 県北広域振興局/経営企画部/二戸地域振興センター)	新沼 司
企画室/総務財務課長(前 大槌町/民生部/保健福祉課)	今俊晴
企画室/主任主査(前 県北広域振興局/企画経営部)	齋藤 深雪
企画室/主任主査(前 県土整備部/県土整備企画室)	村上 郁子
企画室/主任主査(前 商工労働観光部/科学・ものづくり振興課)	千葉 真樹
企画室/主査(前 岩手県教育委員会/岩手県立図書館)	西川 恵理子
宮古事務局/事務局長(前 県北広域振興局/企画経営部/二戸地域振興センター)	高橋 雅人
宮古事務局/主査(前 保健福祉部/岩手県宮古児童相談所)	大崎 静果
宮古事務局/主査(前 農林水産部/団体指導課)	熊谷 浩
教育研究支援室/主事(新採用)	松高 美沙
教育研究支援室/主事(新採用)	神 菜月
学生支援室/主事(新採用)	安宅 美帆
地域連携室/主事(新採用)	佐々木 俊介
企画室/主事(新採用)	千葉 好恵

平成26年度岩手県立大学公開講座(滝沢キャンパス講座)

本学では開学以来、大学の教育・研究の成果を還元し、地域社会の発展に貢献することを目的として、公開講座を開講しています。いわての魅力や強み、県民が自身を深められる話題をテーマに学内外の講師にお話いただき、震災復興の加速化に向けた機運を盛り上げたいと考えています。どなたでもご参加いただけますので、ご家族、ご友人などお誘いあわせてお気軽にご参加ください。

- 7月26日(土) ■ 講座1 13:15~15:15 イノベーションの原点 講師:中村慶久氏(岩手県立大学・学長)
- 8月30日(土) ■ 講座2 10:00~12:00 国際交流から多文化共生の時代へ~新たな社会の創造に向けて~ 講師:石橋敬太郎氏(盛岡短期大学部教授)
- 講座3 13:15~15:15 宇宙の謎を解く~国際リニアコライダー(ILC)計画とは~ 講師:藤本順平氏(高エネルギー加速器研究機構講師)
- 9月6日(土) ■ 講座4 10:00~12:00 動き、つながり、創造する~新たな力でいわてを元気に!!~ 講師:尾無徹氏(山田町健康福祉課保健師)
- 講座5 13:15~15:15 教育の王道に立ち返る、岩手教育「現代化」の展望 講師:高橋聡氏(社会福祉学部教授)
- 9月27日(土) ■ 講座6 10:00~12:00 岩手らしい自動車運転支援システム~緊急事態に備えて見えないもの見える化~ 講師:新井義和氏(ソフトウェア情報学部准教授)
- 講座7 13:00~15:00 いわての力x日立リノベーション東日本の力~滝沢市IPU第2イノベーションセンター入居で生まれる新たな力~ 講師:八田直久氏(株式会社日立リノベーション東日本取締役社長)

●全ての講座に手話通訳・要訳筆記通訳をご用意します。

※講師・タイトルは変更となる場合がありますのでご了承ください。

地域をつくる 希望の星たち

地域に愛される三鉄の社員として、
多くの人に頼りにされる存在に。



卒業生

皆川 哲也 三陸鉄道株式会社総務部総務課

1993年住田町生まれ。岩手県立大学宮古短期大学卒業。高校時代は2年生から野球部にマネージャーとして入り、3年生の時にレギュラー選手に。住田高校として5年ぶりの初戦突破の力になった。この4月の南リアス線の開通の際には、「恐るフォーチェンクッキー 三陸鉄道南リアス線」に出演。本社スタッフと笑顔で参加した。

高校の同級生の多くは就職しましたが、私は将来的に役立つ知識を身につけたいと考えていました。宮古短期大学部には経営・会計分野があり、これはどの企業でも必要とされる勉強。2年間しっかり学ぼうと、経営コースに進学を決めました。

短大部では、経理や簿記など、実際の仕事に直結する勉強が多く、今の仕事にも大いに役立っています。また、ITの知識も深めたいと思い、情報系のゼミに所属。経営と情報の両方を学べたことで、バランスよく基礎づくりができたと思います。大学は、自ら考え、自ら進んで勉強するところ。私自身、勉強するならばきちんとやり遂げようと、休まず授業を受けましたし、資格にも挑戦しました。おかげで積極的に取り組む姿勢が身についたと思いますね。

現在は、三陸鉄道の総務課で経理を担当。給与計算や出納業務を始め、総務全般の仕事に携わっています。特に経理は1円の狂いも許されませんので、正確に仕事をするために下準備を大事にしています。決して華やかな仕事ではありませんが、会社を支えるのは私たち裏方スタッフ。この気持ちを誇りに、現場の社員がスムーズに動けるよう細やかにサポートしたいと思っています。

4月6日に南リアス線が復旧し、全線開通が実現しました。地域の方々が喜んでくれる姿を見て、改めて三陸鉄道の果たす役割を実感しました。私も人から頼りにされる存在になれるよう、しっかり仕事をしていきたいですね。

地域貢献を使命の一つに掲げる
岩手県立大学。
学習や研究に励みながら
地域に役立つ力を磨く在学生と、
仕事を通じて
地域づくりに関わる卒業生、
それぞれの熱い思いを
紹介します。

在学生

荻野谷 敬祐 岩手県立大学総合政策学部4年

1993年茨城県つくば市生まれ。茨城県立並木高校卒業。小学生の時に研究所見学の授業があり、その頃から研究に対して興味を抱くようになったという。大学での勉強の傍ら、気象予報士の資格を取得。2年次の夏にはカンボジアにボランティアに出かけ、貧しい農家の実態に直面しカルチャーショックを受けたという。趣味は野球観戦で、東北楽天イーグルスのファン。

もともと地学を学びたいと思っていたのですが、私は文系科目が得意だったためその道は断念。法律・経済分野で大学を探していた時に、岩手県立大学の総合政策学部なら環境や自然のことまで含めて幅広く学べることを知り、進学を決めました。

大学では環境コースを選択し、3年次から気象気候ゼミに所属。小さい頃から空や飛行機が好きで、常に変化する気象というものに興味を持っていたからです。ゼミでは主に気象データの分析をもとにした研究を行っていて、卒業論は「北上盆地における積雪量の分布と風の関係」がテーマ。今年の冬は、他のゼミ生にも協力してもらい、盛岡から水沢まで約70カ所における1日の積雪量調査を実施。足で集めたデータと気象データを照らし合わせて、風との関係性を考察するのが面白いと感じますね。

勉強の一方で、1年次から挑戦したのが気象予報士の資格試験です。勉強になると思っていたものの、かなり難関でなかなか合格できない。挫折しそうになった時もあったのですが、抛り所となったのが若田宇宙飛行士の「人の価値は努力の量で決まる」という言葉。諦めずに勉強を続け、3回目の挑戦で合格できた時はうれしかったですね。

現在は卒業論と就職活動に取り組み日々ですが、腰を据えて研究できる時間は今しかありません。自分の研究をしっかり突き詰めて、納得のできる卒業論にまとめ上げたいと思っています。

人の価値は努力の量で決まる。
どんな時でもこの言葉が自分の支え。



県大いいね! キャンパス・アテンダントがご案内します!

キャンパスナビ

学生目線で大学の魅力を楽しく発信するキャンパス・アテンダント。現在、44名の学生たちが活躍中です。そんな彼らが、大学の知られざる魅力を紹介するのがこのコーナー。毎回ユニークなネタが飛び出しますので、ご期待ください!

Vol.8 / キャンパス・アテンダントが県大の魅力を総チェック!

これまで大学の様々な魅力をご紹介してきたCAが、独断で「県大いいね!ランキング」をまとめました。学生たちの目線でとらえた大学の好きな所、いい所を、あれこれご紹介していきましょう。

キャンパス編

とってもキレイなキャンパスだよ!

- 1位 岩手山の見えるキャンパス
- 2位 自由にパソコンが使える
- 3位 自然豊かな環境



No.1

圧倒的に多かったのが、雄大な岩手山を望めるきれいなキャンパス。四季折々の表情を見せる岩手山は、まさに県大のシンボル!その姿に心を癒される学生や教職員が多いそうですよ。



学内には自由にパソコンを使える場所がいろいろあり、学びの環境が充実しています。



大学に隣接している滝沢市森林公園。散歩したり、空想にふけったり、学生たちの憩いのオアシスです。

県大に入るといっぱい友だちができるよ!

- [1位] 他学部との交流
- [2位] 先生との交流
- [3位] 地域との交流

交流編

県大いいね! ランキングベスト3!!

CAの学生たちが、キャンパス編・食生活編・交流編の3つのジャンルに分けて

「いいね!」をランキング。それぞれのジャンルでどんな魅力がベスト3に入っているのか、みんなでチェック!あなただったら、どんな「いいね!」を挙げますか?

学食がいちばん人気です!!



- *1位 学食のソフトクリーム
- *2位 おいしい学食メニュー
- *3位 優しく明るい(学生スタッフ)

食生活編



No.1

ダントツ1位は、週替わりで違う味を楽しめるソフトクリーム。抹茶やキャラメル、イチゴなど、フレーバーも様々。人気の味の王者を決める「SFT(ソフトクリーム)総選挙」もあって、みんな楽しんで投票しています。



気さくに声をかけてくれる生協のみなさん。



こちらの写真、CAの学生たちが大集合した時のひとコマ。みんないい笑顔してますよね。このCAを筆頭に、サークル活動や委員会活動などを通じて、学部を超えた学生同士の交流がとっても盛ん。いろんな人と知り合うことで、お互い刺激を受けているとか。

編集後記

特集1で取り上げた、「県立大・滝沢市・企業との産学公連携」。取材で何度か滝沢市IPU第2イノベーションセンターに行きました。その際、取材に協力いただいた(株)日立ソリューションズ東日本をはじめ、交流会などに参加していくつかの人居企業の方にお話を聞く中で、「大学と何かをしたい」、「大学と関わりたい」と考えている企業がたくさんいるということを感じました。企業との連携の場が大学から道路を挟んですぐ向かいにあることは、研究面はもちろん学生にとっても様々な可能性がある魅力的な環境なのではないでしょうか。「第2イノベ」の開所により、滝沢市の協力のもとで大学と企業が結びつく、産学公連携のさらなる発展を期待したいと思います。

(広報担当 三輪陽子)

この4月から広報担当となり約2ヶ月が経過しましたが、改めて感じることは、本学の学生がいかに活力に溢れているかということでした。特集2で取り上げたキャンパス・アテンダントの活動で、大学見学に訪れた高校生を、笑顔絶やさず案内している姿は非常に印象的です。また、「TOPICS」でも、無人販売システムの開発・運用を行っているソフトウェア情報学部の学生、教職員と協働して地域の未来を創ることを目的に学生が企画した活動「LINK (Link)」を取り上げたことで、さまざまな場面で活躍する学生の姿を紹介できたのではないかと思います。同時に、それは私にとっても刺激となる「発見」でもありました。今後も多くの学生の姿を追いかけていきたいと思います。

(広報担当 藤根卓也)



岩手県立大学 企画室 協力:岩手県立大学出版委員会
Iwate Prefectural University

〒020-0693 岩手県滝沢市菓子152-52
TEL.019-694-2000 FAX.019-694-2001
[URL] http://www.iwate-pu.ac.jp/
[e-mail] management@ml.iwate-pu.ac.jp 発行:2014年6月30日